

## 社会科の実践

教科担当者 木原栄彦

福井千鶴子

### ( 1 ) めざす生徒像

物事について考えを深めていく中で、互いの意見を認め合える生徒

社会的事象について興味をもち、自ら調べようとする生徒

### ( 2 ) 研究内容と実践例

研究内容 より

#### ペア、グループ学習活動の効果的な取り入れ

- 以下の活動で小グループ学習活動を効果的に取り入れている。
  - ・ 資料読み取りでの意見交換
  - ・ 課題発見・追究での意見交換
  - ・ 課題解決での意見交換
  - ・ まとめにおけるノート・ファイル作成時の意見交換・協力

研究内容 より

#### 生徒の興味・関心を高める指導内容の工夫改善

- 新出事項の導入の際には、生徒が興味をもてそうな社会事象やエピソードを紹介したり、学習内容の中に身近な地域（特に島根、益田）に関する情報を取り入れたりするなどして、生徒が学ぶ楽しさを味わえるよう工夫している。  
また、生徒が自分で興味のある地域や歴史的人物について教科書や資料などを利用して調べる学習を取り入れ、学習への意欲が高まるようにしている。

### ( 3 ) これまでの成果と課題

- ・ 特に社会科においては、資料をしっかりと読み取って課題を発見し、課題解決に向けての活動に重点をおいてペア学習活動等を取り入れている。生徒一人一人の社会的思考・判断力を育てる上で、役割分担や協力体制が構築されてきている。・ アンケート結果によれば特に1，2年において、約7割を超える生徒が、ペア、グループ学習活動には意欲をもって取り組んでいる。
- ・ どの学年も7割を超える生徒が授業を受けるのが楽しい、授業内容をよく理解できたと答えた。特に、調べ学習などを多く取り入れた2年生では、他教科に比べ関心を持って取り組む生徒の割合が高くなった。反面、暗記が多く苦手だと感じる生徒が多く、社会事象を自分のことに置き換えて主体的に考えることのできる生徒は少ないなどの課題が見受けられる。

ペア学習活動やグループ学習活動を深化させ、他の意見を聞きながら主体的に考えることができる姿勢や態度をさらに育成していきたい。

- ・ 分野ごとに評価規準に基づいて、生徒の到達度を図る評価は、おおむね達できた。しかし、教師サイドの支援が適切に機能しているかという評価方法はさらに検討を要する。本事業の目標および教科の目標に照らした評価計画を検討していきたい。

### (3) に関わるアンケートの結果

項目1 あなたは授業を受けるのが楽しいですか

2 あなたは授業で教わる内容をよく理解できましたか

3 あなたはペア学習活動やグループ学習活動のときクラスメートと協力しながら意欲的に取り組むことができましたか

4 あなたは社会科は暗記することが多く苦手だと感じますか

5 あなたは社会科で学習する様々な事柄について、「なぜそうなったのか」とか「自分に置き換えるとどうだろう」とか考えることがありますか

